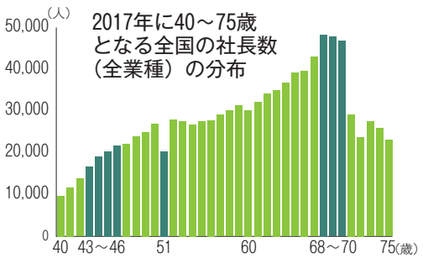
後継者をつくれない老いた社長が経営を誤る

家具業界も知っておきたい 会社倒産の真実 中

帝国データバンクが分析



社長の高齢化が進んでいる。2015年の全国の社長の平均年齢は59・2歳となり、05年以降の10年間で1歳7カ月上昇、過去最高となった。構成比をみると60代が33・3％で最も多く、60歳以上が全体の51・9％を占めた（全国社長分析／帝国データバンク）。

さらに、17年に40～75歳となる全国の社長（全業種）の1歳ごとの分布を調べたところ、68～70歳となる団塊の世代（1947～49年生まれ）が突出し、71歳以上は激減。団塊の世代の中小企業の社長が、日本経済の防波堤になっているかのようにも見える。

特徴はもう一つある。団塊の世代の子どもにあたる社長の数が増加していないことだ。来年43～46歳を迎える第2次ベビーブーム世代（71～74年生まれ）の数をみると、現時点で増加傾向は全く見られず、きれいな左下がりになっている。

後継者不在が66・1％

近年の産業構造の変化や大手企業の再編など、現在の中小企業を取り巻く環境を踏まえ「子どもには継がせたくない」「親の跡は継ぎたくない」といった考え方も増え、今後、第2次ベビーブーム世代の社長が大きく増加する可能性は低いとみられる。

社長の高齢化とともに中小企業にとって深刻な問題は、後継者を含めた人員確保だ。全国（全業種）の約29万社に社長の後継者についてアンケートを実施したところ、66・1％が「不在」と回答した（後継者問題に関する企業の実態調査／帝国データバンク）。

また、15年に休廃業、解散したことが判明した2万3914件（倒産件数の2・8倍）の社長の年齢をみると、60代が34・8％、70代が29・6％、80代が10・4％となり、60歳以上の企業が74・8％を占めた。少子化に伴い、学生の就職活動、社会人の転職活動は売り手市場となり、大手志向が増加。長年、若い戦力が加わらず、社長と従業員が高齢化。万策尽きて事業閉鎖に追い込まれる企業は後を絶たないのだ。

経営者のプライドが障壁

「プライドの高い経営者が多く、抜本的な経営再建や事業譲渡に踏み切れず、タイミングを逃すケースは少なくない」。中小企業の事業再生についてインタビューした地域金融機関の幹部から出た本音だ。中小企業金融円滑化法の実質的な延長措置がとられる中、時間の経過とともに企業価値は劣化、経営者の高齢化と併せ、問題は日々深刻化している。

赤字が続き税金を納めない、雇用を生み出さない企業の存在意義を問う声が一部で上がることも事実。厳しい現実ではあるが、経営者は何のため、誰のために会社が必要なのかをいま一度考え、行動に変える時期に差し掛かっているのではないか。

（情報部・阿部成伸記者）

Design Atrium Tokyo 2016

神奈川県家具工業組合が出展

実演で「技術力」アピール

デザインを意識する人たちに向けた展示会「Design Atrium Tokyo（デザイン・アトリウム・トーキョー）2016」が10月27日から30日までの4日間、東京・西新宿の新宿パークタワーで開かれ、神奈川県家具工業組合が出展した。「シゴトバ見本市」をテーマに、挽物（ひきもの）の実演や手作業による陶器類の修復、木製のスプーン・ナイフを作るワークショップなどが行われ、体験型の展示会となった。

㊤会場で実演されていた挽物。ベテランの職人技が光る㊥展示会では家具修理を専門とするアレックスが実演を行っていた㊦ダニエルのアクセントチェア「ローラ」と装飾暖炉

「横浜クラシック家具」が神奈川名産100選に選定されているダニエルは、好みの部材で色やデザインを選べる「装飾暖炉」を展示。実際に暖炉として使用するのではなく、壁面を利用して室内を豪華に彩ることを目的にしている。暖炉が作れないマンションに住む人に好まれているという。

イギリスの老舗家具メーカー「アーコール」の新作も展示。高度な技術を使い、1本の木材を曲げて背もたれ部分を作ったチェア「Flow」は、柔らかで美しいフォルムとなっている。重ねることができるので、室内の掃除のときや収納時には便利だ。デザインはアーコール社で初めての日本人デザイナーとなった安積朋子氏が手掛けた。

手作業で昔ながらのスプリングを座面下に採用したアクセントチェア「ローラ」は、バネの反発力ならではの柔らかさと弾力を兼ね備えた座り心地を持っている。

ダニエルのほか、アレックス、東京バンドソー、ハセガワ木工所、マカロニデザインなどが所属する同組合は、若手経営者や家具職人たちの集団「かなもく塾」で製作した高級家具を展示。横浜のシンボルである神奈川県庁本庁舎（キング）・横浜税関（クイーン）・横浜市開港記念会館（ジャック）の三塔をイメージした家具や椅子は、レトロな雰囲気の中にもモダンさが随所に現れている。

クイーンの塔をイメージしたキュリオは前面に曲面を施したガラスを採用（当日の展示物はプロトタイプのためプラスチックを使用）。内部にはLED照明を縦一列に配し、均一に内部を照らす。

ジャックの塔をイメージしたロッキングチェアの背もたれには塔をモチーフにしたデザインが施されている。広めの座面でゆったりとした時間を過ごすことができそうだ。

ACTEX工房（ACテクノロジーズ）は、ハセガワ木工所が製作した木製キャビネットを使ったインテリア木製ラジオ受信機（AM／ワイドFM）を展示。カテドラル風な丸みを出すために高い技術を持った家具職人が手作りで仕上げている。木製らしい温もりのある、耳に優しい音を聴かせてくれる。

同組合の小安亮専務理事は「かなもく塾には素晴らしい技術を持ったベテランの職人もいれば、若手の経営者もいる。それぞれが協力し合い、切磋琢磨（せっさたくま）して神奈川の家具産業を盛り上げようとしている。横浜三塔をモチーフにした家具は技術力をアピールするために作った。いろいろなイベントで展示して、かなもく塾の名前を広めたい」と話していた。

横浜三塔をイメージした家具と椅子

五輪向け製品開発

シオン

木部用自然塗料「U―OIL」

自然塗料、天然接着剤の製造・販売を手掛けるシオンは新築物件やリフォーム家屋、家具や建具などに幅広く使用できる木部用塗料「U―OIL（ユーオイル）」シリーズを「新価値創造展2016」に出展した。東京五輪・パラリンピックの施設需要に向けて、来年には屋外競技場用の新製品を発売する。

同シリーズは2012年に販売開始。現在まで屋内専用の「スタンダード」、屋外でも使用できるよう施工性と耐候性を高めた「ハード」、大型屋外建築物に求められる木材保護機能を付加した「スーパーハード」、日曜大工やハンドメード向け「for DIY」の4種類を展開している。

家具や木工メーカー向けとなるハードは石油系溶剤を使わずに、アマニ油と天然鉱物由来の顔料から製造される。

石油系溶剤を使用した製品のような刺激臭がなく、乾燥性や着色性に優れ、のびが良く塗りやすいのに加えて、ウレタンのように木材表面に膜を張る造膜型塗料ではなく、調湿性を妨げない浸透型塗料なので、塗装後は木目の自然な美しさが際立つという。カラーバリエーションは最大66色。希望色オーダーにも応じる。

ハードとスーパーハード、for DIYの3種類は屋外用塗装しても約4年間色落ちしにくい耐候性が、促進耐候試験で確認されている。

スーパーハードは、防蟻（ぼうぎ）防虫、防腐、防カビ、UVカットの4つの保護性能が付いている。「木材保護塗料（WPステイン）JASS 18 M 307」適合品で、公共物件に適したプロ仕様となっている。

東京五輪向けに開発を進めているのは、スーパーハードのUVカット性能を高め、酸素と結びつきにくいフッ素によって耐候性向上を目指し、さらに不燃性を付加した「ウルトラハード」（仮）。屋外競技場の木部用塗料として提案する。来年初頭にも市場投入する予定。

製品は全て受注生産で1缶からのロット注文も可能。問い合わせは同社（電話019―677―7060、FAX019―637―3190、Eメールinfo@xion.co.jp）。

御園染 ツルカメ印本舗 鏡掛・油簞（ゆたん）
㈱ 小嶋与商店
〒111-0042 東京都台東区寿 3-18-1 ☎03（3841）1247
FAX 03-3841-1278 本社 滋賀・能登川

国土緑化推進機構

木材の"可能性"提案

競技場の座席など展示

国土緑化推進機構は、10月31日から11月2日まで東京ビッグサイトで開催された「新価値創造展2016」に出展した。「木材の新しい使い方や、これまで木材では作ることが困難だったもの」をテーマにリオデジャネイロ五輪で使用された卓球台「インフィニティー」（三英、天童木工）、新国立競技場に提案中のスタジアムベンチ、椅子など18点を紹介した。

地域材の可能性を提案する出品からピックアップして紹介する。

環境とサポーターに優しいスタジアムチェア

（コトブキシーティング、天童木工）

スギ、ヒノキ、カラマツなどの国産針葉樹を100％使用し、圧密成形技術で柔らかい針葉樹でもスタジアムチェアとして十分な強度確保が可能となった。成形工程で行う防腐・防蟻（ぼうぎ）処理とメンテナンスによって、製品の長寿命化とコスト低減にも寄与する。

木龍（モックル）

（アトリエ・キノピオ）

長野県・諏訪湖の神龍伝説にちなんで名付けられた木製フレーム自転車。同県産の木目が美しいカラマツ材でカーボンファイバーを挟み込む形で強度バランスを調整した。木製フレームは従来のスチールやアルミニウム合金などと比べて重くなるが、走行時の衝撃を吸収する効果があるという。

胡坐のかけるスタジアムベンチ

（オリバー）

日本のおもてなしの心を体感できるよう、応援スペース兼休憩スペースとして胡坐（あぐら）がかける設計となっている。国産スギを使い、座と背はウエーブ状の集成材とした。反りを軽減する強度も持ち合わせている。スペースが広く取られているので大柄な外国人でもゆったり座ることができる。

国産木材サーフボード

（SAKUWOOD、LEI SURF DESIGNS、もりずむ、アンデコ）

古くから船材として用いられてきたスギに着目して作られた、国内初という木製ロングサーフボード。3000×600×150㍉の三重県産無垢美（むくみ）スギを2年間かけ乾燥させた後、分割、内部に発泡スチロールを入れ完成させた。

12月1日 "web家具新聞"リニューアル→電子版＋デジタル紙面

好みに合わせて読める Two ways 方式（スマホにも対応）

購読料金

年間購読
家具新聞 18,900円
web家具新聞 18,900円
家具新聞＋web家具新聞 19,400円
6カ月購読
家具新聞 9,450円
web家具新聞 9,450円
家具新聞＋web家具新聞 9,700円
アカデミックコース
web家具新聞のみ 6,000円

※新料金体系になります。
※現在ご契約いただいている購読者は契約満了後、新料金体系になります。
※アカデミックコースは学生、研修生のためのコースです。学生証等の身分を証明するものが必要です。

2カ月無料閲覧キャンペーン実施

臨場感溢れる デジタル紙面

拡大して鮮明に

紙面イメージそのままご覧になれます

優しい配色
充実した統計・相場データ

「家具新聞電子版」は紙面に掲載できない統計・相場データを網羅。記事の裏側がわかるサイドストーリーやニュース速報を掲載。記事更新時はメールマガジンでお知らせいたします。

従来 http://www.kagu-np.com → 12月1日より http://www.kagunews.net

新聞購読の申し込み、"web 家具新聞" 閲覧の問い合わせは 電話 03-6264-1898 または メール kagu-news@seisaku-center.co.jp